

特集 I
デザイン工芸都市高岡が起こした
ムーブメント 5

特集 II
地方がつくるJAPANスタイル2 9

TAKUMIと道具
般若 剛(漆器・彫刻) 13

新クラフト産業・デザイン育成事業
新商品研究・開発「いのり」プロジェクト 19

LIVE TAKAOKA
クラフトマンズ ギャザリング 15

FRONT LINE 1
高岡市伝統工芸産業技術者養成スクール 17

Do!工芸体験実習
お盆(大・小)に蒔絵をする 20

第33回デザインセミナー
ソーシャルデザイン 20

技伝承 21
ギャラリー高岡 22

地の味には、地の器
錫の器×高岡の地酒 22

DETAIL OF TAKAOKA
重要文化財 雲龍山 勝興寺 23

表紙

富山大学芸術文化化学部の学生と高岡
伝統産業青年会の会員が共同製作した
2007クラフトコンペ入選作品。

(上) 「崖」 伝大(高間栄一郎)水盤
(左・下) 「みずたまりのキャンドル置き」
伝大(南條智世)
キャンドルプレート

「伝大」とは、学生と青年会メンバーが組んだチ
ーム名です(P2、report2参照)

(写真提供・取材協力)(50音順・敬称略)

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 安次富隆 | 高岡市美術館 |
| いきいき富山館 | 高岡商工会議所 |
| 駅地下芸文ギャラリー | 高岡銅器協同組合 |
| 大澤光民 | 立川裕大 |
| カラーたかおか | 田中美夜 |
| 城戸崎博孝 | 津田興世 |
| 有限会社清都酒造場 | 財団法人伝統的工芸品産業振興協会 |
| 笹木直 | 富山県総合デザインセンター |
| 三協立山アルミ株式会社 | 社団法人富山県デザイン協会 |
| THE COVER NIPPON | 富山大学芸術文化学部 |
| 勝興寺 | 中山裕晃 |
| 「新日本様式」協議会 | 日本清酒造合資会社 |
| 株式会社関菊 | 株式会社能作 |
| 相互企画印刷株式会社 | 有限会社ハイビル |
| 大和高岡店 | 般若剛 |
| 高岡工作連盟 | 有限会社ファイン・プロジェクト |
| 高岡市鎔物資料館 | mind gear(下尾和彦・さおり、澤田健勝) |
| 高岡市教育委員会文化財課 | 株式会社ユニオン |
| 高岡市工業振興課 | 和田敬三 |

report 1

「新日本様式」協議会が北陸ワークショップ開催
高岡クラフトコンペが100選に選定

世界へ向けて新しい日本ブランドの確立
をめざす「新日本様式」協議会の北陸ワー
クショップが、11月1日・2日に高岡・金沢の
2都市で開催された。

協議会会員と地域の交流を通して、新た
な商品・コンテンツの開発をめざすもので、
京都に続いて2回目。約80人が参加した。

1日は、協議会、地場産業の双方からプレ
ゼンテーションが行われた。高岡からは、21
回を迎えた高岡クラフトコンペの取り組みに
ついての説明などを行い、終了後、富山県
産業高度化センター1階ホールで、交流会
を開催。地元の食材を使ったおもてなしに、
参加者は和やかな雰囲気で見学を深めた。

2日は、市内の工場・工房を視察。午後
からは、金沢へと移動した。会員からは、「北
陸ならではの充実したワークショップだった」
との感想が寄せられている。



北陸ワークショップ交流会

また、11月12日には、2007年の「新日本
様式」100選が発表され、「工芸都市高岡
クラフトコンペティション」が選定された。

「伝統に安住せず、常に新しい才能を発
掘し、今につなげる活動」と高い評価を受け、
前年度の「マテリアルプレート」(有限会社
ハイビル)に続いて2件目の快挙となった。

11月27日には、東京国立博物館で「ご
披露の宴」が開催され、翌28日から12月2
日まで、100選展が開催された。

【問】高岡市デザイン・工芸センター TEL.0766-62-0520



「新日本様式」100選のご披露の宴が行
われた東京国立博物館 法隆寺宝物館。



東京国立博物館表慶館で開催された100
選展。クラフトコンペ歴代グランプリ作品が
展示・紹介された。

report 2

工芸都市高岡
2007クラフトコンペ



グランプリ「砂泥皿・羊の群」

入選。グランプリは、信耕正明さんの「砂泥皿・羊の
群」(食器・オーナメント)が受賞した。

今回、新しい試みとして、富山大学芸術文化化学部
の学生と高岡伝統産業青年会のメンバーがそれぞれ
チームを組んで共同製作した作品を出品(表紙参照)。
そのうち3点が入選となった。また、芸術文化化学部
の学生が審査会場でのボランティアにも参加した。
クラフト展と同時開催で、クラフトコンペを支える
地元企業の商品を展示し

た「Takaoka Style」、伝
統産業青年会の作品展示
「くらしに生きる伝統のか
ほり展」、芸術文化化学部
による「PARERGON」
などが中心市街地で行わ
れ、多くのクラフトファン
にぎわった。



【問】高岡商工会議所 TEL.0766-2335000

report 3

駅地下芸文ギャラリー
オープン

高岡駅地下街の賑わい
を創出し、「ものづくり高
岡」の情報発信を目的と
して、4月1日、「駅地下
芸文ギャラリー」がオープ
ンした。



富山大学芸術文化学部、
高岡市、高岡商工会議所、末広開発、高岡ステーシ
ョンパートナーが主体となり開設。芸術文化化学部が企
画・展示を行い、学生・教員の作品、地域企業の新商
品などの紹介をはじめ、実験的な試みを行っていく。
オープニングレセプションでは、「高岡でのものづく
り」をテーマにしたギャラリートークなどが行われた。
また、12月には、ライブペインティングの競技「Joint
Art Battle」を開催し、



「Joint Art Battle」

駅地下を熱気のあるア
ー
ト空間に変えた。
展示スペースでは、毎
月企画展を開催。サロ
ンも併設されており、
高岡の新しい情報発信
スポットとなっている。

【問】駅地下芸文ギャラリー TEL.0766-256078

report 4

二番町の御車山
車輪修復へ漆工完了

平成18年度より計画されていた高岡御車山の二番
町の車輪の修復作業が、夏より始まった。

高岡御車山は、国の重要文化財であり、修復は全
国山・鉾・屋台保存連合会の保存技術員が行う。
高岡市では昨年、連合会の部会である祭屋台等製作
・修理技術者会に4名を推薦し、登録されている。そ
のうち漆工は、内島正雄氏、木津繁治氏の2名で、今
年度は両氏を中心となって漆工の修復を行った。

車輪本体は、新調されたもの。修復は富山大学芸
術文化化学部との連携で行われ、7月末、作業場とな
る同部の教室に運び込まれた。林教授監修のもと、
11月末に作業完了。平成20年は、金工作業を行う予
定で、開町400年を迎える平成21年の高岡御車
山祭でデビューする。

10月5日・6日に
は、「祭屋台等製作
修理」研修会が高岡
市で開催され、全国
の技術者や保存連
合会員が集まり、山
町筋などの視察や
講演に参加した。



運び込まれた車輪。直径2メートル。

【問】高岡市教育委員会文化財課 TEL.0766-201453

report 9 鑄物の伝統を紹介する小さな博物館
高岡市鑄物資料館オープン

4月29日、高岡鑄物発祥の地である金屋町に高岡市鑄物資料館がオープンした。金屋町通りの伝統的な民家を改修して整備したもので、「さまのこ」と呼ばれる千本格子の町並みに調和する外観となっている。

展示室には、鑄物師を呼び産業を奨励した高岡開町の祖前田利長公の書状や、鑄造するときに使った「たたら」「ふいご」、鑄物の道具などを展示。貴重な資料も多く、高岡の

鑄物の歴史や伝統にふれることができる。

高度な技を持つ技術者の作品や道具の展示など、特別企画も随時開催され、見応えのある小さな博物館として来場者を集めている。

[問]高岡市教育委員会生涯学習課 TEL.0766-20-1452



高岡開町400年記念 2年前イベント「あげよう高岡の夢」でゆったりとあがった巨大紙風船。

[問]高岡市開町400年記念事業推進室
TEL.0766-20-1688

9月15日には、高岡古城公園において2年前イベント「あげよう高岡の夢」が開催された。開町400年マークや利長くん、市内の小学生たちが描いた高岡の夢などが、巨大紙風船となり、見事に夜空に浮かび上がった。

[マスコットキャラクター]



[開町400年シンボルマーク]



[開町400年キャッチフレーズ]

時をこえ 心をつなぐ 高岡開町400年

2009年は、高岡が開町して400年の記念すべき年。これに向けて、6月にシンボルマークが決定、発表された。デザインは、富山大学芸術文化学部の前田学部長。基本イメージは高岡城の

report 10 涼やかな音色で、高岡をPR
JR高岡駅にオリジナル風鈴設置



風鈴を取り付ける「カラーたかおか」のメンバー

7月11日、JR高岡駅のホームや改札口などに高岡銅器の風鈴約200個が取り付けられた。高岡銅器協同組合が毎年設置しており、15回目。

今回は、高岡市のイメージアップに取り組む若手職員

グループ「カラーたかおか」のメンバーが参加。伝統産業を体験しようと自分たちで風鈴の飾り部分のアイデアを考え、デザイン・工芸センターで鑄造した。

新高岡市のマークや高岡大仏、風が吹くと「かっちゃん(ぶつかり合い)」をする伏木けんか山の風鈴など、暑い夏、駅を利用する人々に涼しげな音で高岡をPRした。

[問]高岡市デザイン・工芸センター TEL.0766-62-0520



[問]高岡市工業振興課
TEL.0766-20-1285



「伝統的工芸品」の指定を受けた全国の漆器産地の市町村長が、漆器産業の振興支援策を協議する「ジャパン(漆)サミット」が、10月18日、東京都豊島区のホテルで開催された。

サミットの構成メンバーは、23産地自治体の首長、オブザーバー1市と28産地組合の代表者となっている。第19回目を迎える今回は、高岡市が開催市となり、橋市長が開会挨拶後、進行役を務め、産地の課題・先進事例発表では、輪島市(輪島漆器)、加賀市(山中漆器)がプレゼンテーションを行った。漆器を取り巻く環境は厳しい状態が続いている。サミットでは、漆器への支援と産地自治体と密接に連携することなどを盛り込んだ共同宣言を採択して終了した。

report 11 高岡の技の高さを全国に発信
第7回高岡伝統工芸品展

全国伝統的工芸品センター(東京都豊島区)で、9月6日から18日まで、「第7回高岡伝統工芸品展」が開催された。

高岡銅器・漆器を展示・紹介するとともに、1階の「匠ステージ」では、伝統工芸士らの実演が行われた。また、今回は初めて体験コーナーを実施。現代の名工に選ばれた鳥田宗吾氏によるタガネを使った錫の器への彫金など、来場者にもものづくりの楽しさを感じてもらった。

「未来の工芸士コーナー」では、富山大学短期大学部の学生や技術者養成スクール(P17参照)の生徒による作品を展示。「意欲的に取り組んでいて、アイデアが面白い」などの感想が寄せられた。

伝統の技による作品も「美しく感動した」など好評で、会場を訪れた多くの人々を魅了していた。

[問]高岡市デザイン・工芸センター TEL.0766-62-0520



[問]富山県デザイン協会
TEL.0766-63-7140

「感性価値創造」も取り上げられている。同時に、第47回富山県デザイン展が、11月22日からウイング・ウイング高岡で開催された。入賞作品の展示の他に、「伝統の未来形」をテーマに、県内6社のデザイナーと協力企業が行ったワークショップの成果がプレゼンテーションされた。

「感性価値創造」も取り上げられている。同時に、第47回富山県デザイン展が、11月22日からウイング・ウイング高岡で開催された。入賞作品の展示の他に、「伝統の未来形」をテーマに、県内6社のデザイナーと協力企業が行ったワークショップの成果がプレゼンテーションされた。



経済産業省森田氏の講演。

report 12 日本とスウェーデンで、学生たちが
同じ課題で同時期に制作した「トレイ展」



富山大学の学生の作品。トレイにメモが書ける。

富山大学高岡短期大学部専攻科の学生と、スウェーデンのカハラゴデン美術工芸学校の学生18人が、同一課題で制作を行う国際連携授業が行われ、双方の国で発表された。課題は、「トレイの制作」。日本とスウェーデンで、

両校ほぼ同時期に出題され、制作した。授業は、今回が2回目。

日本では、4月16日から20日まで、高岡キャンパスで展示された。メッセージが書ける黒いトレイや、筆記用具とスケッチブックが収納できるトレイなど、それぞれの文化的背景の違いも感じられる興味深い展示となった。

[問]富山大学芸術文化学部 TEL.0766-25-9111



カハラゴデン校の学生の作品。スケッチトレイ。



[問]いきいき富山館(情報館)
TEL.03-3231-5032

富山の魅力の発信拠点、富山県アンテナショップ「いきいき富山館」千代田区有楽町東京交通会館地下1階において、10月10日から11月29日まで「富山の酒器とライフスタイル展」が開催された。



report 5

高岡開町400年へ
2年前イベント開催

report 6

ジャパン(漆)
サミットを主催

report 7

感性価値創造に
向けてフォーラム

report 8

いきいき富山館で
高岡の酒器を展示